

# 平成21年1月学術講習会

(社) 日本鍼灸師会  
(社) 東京都鍼灸師会

主催

厚生労働省後援 通算 685 回

(2009.1.25)

## 演題および講師

婦人科疾患

### I. 「更年期障害」

—心身ともに曲がり角—

飯田橋レディースクリニック 院長

東京女子医科大学 産婦人科 非常勤講師 岡野 浩哉

鍼灸治療編

### II. 「末梢循環障害の鍼灸治療」

埼玉医科大学 東洋医学科 医学博士 小俣 浩

## 「更年期障害」

—心身ともに曲がり角—

岡野 浩哉

更年期とは、女性の加齢の過程における生殖期から非生殖期への移行の期間を指します。閉経とは、月経が閉止する現象そのものを指し更年期に起きる中心な現象です。この時期にいわゆる“更年期障害”と呼ばれる器質的变化に起因しない多種多様な症状が現れます。その主たる原因は卵巣機能の低下ですが、これに加齢に伴う身体的変化、精神・心理的な要因、社会文化的な環境因子などが



複合的に影響することにより複雑な症状を呈するのです。

一方で、この年代を単に更年期障害の発現時期としてみるにとどまらず、女性の健康を評価する機会としてとらえようとする考えが始まっています。女性に対し健康増進への関心を高め、その必要性を知らしめる機会、各種疾病の予防的手段にでる絶好の機会としてとらえるのです。これは世界的な動向であり、人口構造の変化にも関係しています。副題に掲げた『心身ともに健康の曲がり角』とはこの潮流をお示ししたかったのです。

具体的には、更年期より病態の温床が始まる疾患として、骨粗鬆症、心血管系疾患などが挙げられます。何故温床ができ始めるかという点、閉経まで女性は女性ホルモン(エストロゲン)で守られているからなのです。エストロゲンが喪失すると、骨では破壊が進みとても脆くなり、ちょっとした転倒でも骨折してしまうようになります。血管では動脈硬化が進みます。心筋梗塞などは男性が多い疾患ですが、女性でも閉経後急速に増加します。

他にも皮膚や脳機能などにも強く影響していることが知られています。更年期障害も含めこれらを一度に改善に向かわせることができる治療法として、ホルモン補充療法(HRT)が再認識され始めています。学会が中心となって我が国初の HRT ガイドラインの作成も進められています。HRT の善し悪しをしっかりと理解し女性の健康に貢献するためです。今回はこのような一連の最新更年期医療の流れを簡単に説明させていただきたいと思っています。そしてこのお話が、皆さんの臨床に少しでも役立つことを心より祈っております。

# 「末梢循環障害の鍼灸治療」

小俣 浩

## I. はじめに

広義の末梢循環障害には、末梢血管疾患（動脈疾患・静脈疾患）とリンパ管疾患が存在し、急性・慢性疾患に分類される。末梢動脈疾患（Peripheral Arterial Disease ; PAD）には、炎症や動脈硬化により血管が閉塞する器質的動脈疾患と血管が強度に収縮し血流障害を起こす機能的動脈疾患に分けられる。さらに、器質的動脈疾患には、閉塞性動脈硬化症（Arterio Sclerosis Obliterans ; ASO）、閉塞性血栓血管炎（Thrombo Angiitis Obliterans ; TAO）、急性動脈血栓症、急性動脈塞栓症と器質的静脈疾患（静脈血栓症、慢性静脈不全、その他）に細分化される。中でもASOは、50歳以上の男性に多く、主に下肢の主幹動脈の血管壁にコレステロールが沈着する事により血管が狭窄や閉塞することが原因で下肢のしびれや痛み、冷感や間欠性跛行を呈する疾患である。最近では、糖尿病や糖尿病性腎症に合併したASOを有する維持透析患者の足病変（外傷を起因として感染症や潰瘍形成・壊疽に移行）が四肢切断の危険性を伴う為に、その集学的なフットケアが重要といわれる。また機能的動脈疾患には、原因不明の場合（原発性）をレイノー病、原因が明らかなもの（続発性）をレイノー現象（Raynaud's phenomenon）と呼び、リウマチ膠原病を背景とした病態と職業病の一つである“振動病”も含まれる。これらの病態は寒冷刺激や精神的緊張、振動工具の過使用などによって発作的に誘発される可逆的な血管攣縮による手指などの皮膚色調変化の総称をいい、手指の痛み、しびれ感や冷感等の自覚症状を伴う。一方、リンパ管疾患にはリンパ管炎とリンパ節炎、リンパ浮腫に大別され、急性・慢性リンパ節炎に分類される。特にリンパ浮腫はリンパ管やリンパ節の先天性の発育不全、または二次性で子宮癌や乳癌の術後や放射線療法後に多く、



しばしば臨床的に難治性といわれる。

## Ⅱ. 我々の末梢循環障害（機能的・器質的動脈疾患）に対する鍼治療成績

これまで我々は、疼痛症状を中心とした様々な臨床症状についてその鍼治療効果を報告してきた。中でも、末梢循環障害に対する鍼治療の有用性を検討した結果、機能的障害である膠原病患者のレイノー現象及び、器質的障害である維持透析患者のPADに対する鍼効果は、周囲の皮膚血管や骨格筋血管群に対して血管反応性を上昇させることから、恐らく、自律神経系（特に交感神経）や血管拡張性神経ペプチドを介した作用機序により血流改善の生態反応が示唆されている。今回はこれらの成績ついて解説させていただき、さらに脳循環、網膜血管系、筋内循環等、最近の研究成果の一部も紹介させていただくこととする。

## Ⅲ. 末梢循環障害に対する鍼治療論文と今後の展開

過去の膠原病患者のレイノー現象に対する鍼治療研究には、岐阜大学皮膚科の前田・Maeda（皮膚臨床. 1979;21(12):1033-42、J Dermatology. 1988;15(2):133-40）らの論文が数多く、その後小俣（Biomedical Thermography. 1995;14(3):223-27）や山崎（西日皮膚. 1995;57(1):60-65）、Appiah R（Internal Medicine. 1997;241(2):119-24）からも良好な結果が報告されている。しかし、近年ではHahn M, Stein A（JDDG. 2004;（4）:758-62）らの論文でその有効性は懐疑的とされており、このことは患者群の背景が異なることが結果の差異に関連する可能性がある。一方、鍼刺激ではないものの、下肢の循環改善研究（ASO や TAO）には、電気刺激のL. Augustinsson（Ann. Surg. 1985;202(1):104-110）の論文に始まり、坂井（厚生省長寿科学総合研究費平成3年度研究報告. 1992;90A6102-7, 331 - 334）や今井（明治鍼灸医学. 1998;23:19-24）、高橋（慢性疼痛. 2004;23(1):203-207）、安野（日温気物医誌. 2005;68(2):102-109）の報告が散見され、手技療法の論文（X f Li, et. al. Surg Today. 2007;37:103-108）を含めて、PADの補完代替医療が注目されている（M H. Pittler, et. al. Complementary therapies for peripheral arterial disease : Systematic review. Atherosclerosis. 2005;181:1-7）。本領域の今後の課題としては、再

生医療としての“血管新生”に鍼治療がどのように関われるかが最近注目されている（小田ら）。

#### **IV. おわりに**

本邦では、これらの鍼治療による循環改善効果を包括して矢野らが第 51 回・全日本鍼灸学会学術大会「基礎と臨床の対話：ここまでわかった鍼灸医学－末梢循環に対する鍼灸治療の効果－」（全日本鍼灸学会雑誌、2003 年第 53 巻 1 号, 28-61）にて報告している。御参照されたい。